三十年三月十八日

内閣總理大臣

十

大甲一四

明治三十年三月二十四日

内閣總理大臣 ㊞

法制局長官 ㊞

外務大臣 ㊞	大藏大臣	海軍大臣 ㊞	文部大臣 ㊞	遞信大臣 ㊞	黒田議長 ㊞
内務大臣 ㊞	陸軍大臣 ㊞	司法大臣 ㊞	農商務大臣 ㊞	拓殖務大臣 ㊞	

別紙両院ノ議決ヲ經タル

一 貨幣法案

一 貨幣整理資金特別會計法案

一 明治十七年第十八號布告兌換銀行券

條例中改正法律案
一明治十八年第十四號布告中改正法
律案
一明治十二年第三十五號布告廢止法
律案

ヲ審査スルニ孰レモ貴族院議長上奏
ノ通裁可セラレ可然ト認ム

法律案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル貨幣法
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名

御璽

明治三十年三月十七日

内閣總理大臣
大藏大臣

法律第十二號

呈案ノ通

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル貨幣法
理資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名

明治二十年三月十六日

御璽

法律第十七號

呈案ノ通

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治十七年第十八号布告兌換銀行券條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニヲ公布セシム

内閣總理大臣

大藏大臣

御名

明治二十年三月十六日

御璽

法律第十八號

呈案ノ通

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治十八年第十四号布告中改正法律ヲ裁可シ茲ニヲ公布セシム

内閣總理大臣

大藏大臣

御名　御璽

明治三十年三月廿六日

内閣総理大臣
大藏大臣

法律第十九號

呈案ノ通

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治十二年第三十五号布告廢止法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十年三月廿六日

内閣総理大臣
大藏大臣

法律第二十號

呈案ノ通

貨幣法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一條ニ依リ此段申進候也

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

貴族院議長之印

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貴族院ハ兩院ノ議ヲ経タル貨幣
法案ノ裁可ヲ奏請ス

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

貴族院之印
議長之印

貨幣法案

貴族院

国立公文書館
National Archives of Japan

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

十錢

白銅貨幣

五錢

青銅貨幣

一錢

五厘

第四條　貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヒ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一　金貨幣　純金九百分參和銅一百分

二　銀貨幣　純銀八百分參和銅二百分

三　白銅貨幣　「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

四　青銅貨幣　銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一　二十圓金貨幣　四匁四分四厘四毛四（十六「グラム」六六六五）

二　十圓金貨幣　二匁二分二厘二毛二（八「グラム」三三三三）

三　五圓金貨幣　一匁一分一厘一毛一（四「グラム」一六六六）

四　五十錢銀貨幣　三匁五分九厘四毛二（十三「グラム」四七八三）

五　二十錢銀貨幣　一匁四分三厘七毛七（五「グラム」三九一四）

六　十錢銀貨幣　七分一厘八毛八（二「グラム」六九五五）

七　白銅貨幣　一匁二分四厘四毛一（四「グラム」六六五四）

八　一錢青銅貨幣　一匁九分零厘零毛八（七「グラム」一二八〇）

九　五厘青銅貨幣　九分五厘零毛四（三「グラム」五六四〇）

第七條　金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條　貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條　金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

一　金貨幣二十圓ハ毎片八毛六四（〇「グラム」〇三二四〇）一千枚毎ニ八分三厘（三「グラム」一一二五〇）十圓ハ毎片六毛零五（〇「グラム」〇二二六九）一千枚毎ニ六分二厘（二「グラム」三二五〇〇）五圓ハ毎片四毛三二（〇「グラム」〇一六二〇）一千枚毎ニ四分一厘（一「グラム」五三七五〇）トス

二　銀貨幣ハ各種共毎片二厘五毛九二（〇「グラム」〇九七二〇）五十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ一匁二分四厘（四「グラム」一一二五〇）十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘（三「グラム」一一二五〇）十圓金貨幣四匁四分二厘（十六「グラム」五七五〇）十圓金貨幣二匁二分一厘（八「グラム」二八七五）五圓金貨幣一匁一分零厘五毛（四「グラム」一四三八）トス

第十一條　金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘（十六「グラム」五七五〇）十圓金貨幣二匁二分一厘（八「グラム」二八七五）五圓金貨幣一匁一分零厘五毛（四「グラム」一四三八）トス

第十二條　金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附　則

第十五條　從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條　從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ」

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ

場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ

第十七條　從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十八條　此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地

金ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　此ノ法律ニ牴觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條　此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

本邦ハ往時金ノ產出多ク慶長以來多數ノ金貨ヲ鑄造セリト雖モ安政開港以後本邦金銀ノ比價其當ヲ失セシカ爲メ金ノ流出甚シク殆ント其弊ニ堪ヘス明治維新ノ始メ第一著手ニ幣制ノ改革ヲ規畫シ金貨本位ヲ採用セリ然ルニ當時紙幣ノ制宜シキヲ失シ正貨ノ輸出ヲ促シ明治十一年ニ至リ一時止ムコトヲ得ス銀貨ノ一般通用ヲ公許セリ茲ニ於テ貨幣條例上金貨ヲ以テ本位ト爲スト雖モ實際銀ハ諸般計算ノ基礎トナリ唯一ノ本位タルノ地位ヲ占メ以テ今日ニ至レリ然ルニ今ヤ金銀ノ關係ハ大ニ其趣ヲ異ニシ又往日ノ比ニアラス世界ノ大勢ト我邦經濟ノ進步發達ハ銀貨本位ノ不利ヲ感セシムルニ至レリ加フルニ戰後大ニ本邦經濟ノ擴張ヲ要スルモノアリ而シテ日清事件ノ結果金ノ供給ヲ得ルハ頗ル容易ニシテ此機ニ乘シ斷然金貨本位ノ制度ヲ採用シ將來益々我經濟ノ發達ト鞏固トヲ圖ラントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

貨幣整理資金持別會計法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一條ニ依リ此段申進候也

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貴族院議長之印

国立公文書館
National Archives of Japan

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル貨幣整理資金特別會計法案ノ裁可ヲ奏請ス

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

貴族院

貨幣整理資金特別會計法案

貨幣整理資金特別會計法

第一條　一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲メ貨幣整理資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條　明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條　交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四條　毎會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ生スルトキハ其ノ過剰金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條　政府ハ毎年貨幣整理資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

貨幣整理資金特別會計法案理由書

貨幣制度改革ニ就キ一圓銀貨幣交換其他貨幣整理ノ爲メ資金ヲ要シ其會計ハ一般會計法ニ依リ難キモノアルヲ以テ特別會計ヲ設置スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

貨幣整理資金特別會計法案理由書

貨幣制度改革ニ就キ一圓銀貨幣交換其他貨幣整理ノ爲メ資金ヲ要シ其會計ハ一般會計法ニ依リ難キモアルヲ以テ特別會計ヲ設置スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十七年第十八號布告兌換銀行券
條例中改正法律案
右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提
出案本院ニ於テ可決セリ依テ御勅
奏相成度議院法第三十一條ニ依
リ此段申進候也
明治三十年三月二十三日
貴族院議長公爵近衛篤麿
内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案ノ裁可ヲ奏請ス

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

貴族院議長之印

国立公文書館
National Archives of Japan

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通ヽ改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附　則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ伴ヒ兌換銀行券引換ノ方法ト其ノ準備トニ改正ヲ要ス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十八年第十四号布告中改正法律案
右衆議院ノ議決ヲ経タル政府提
出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執
奏相成度此段申進候也
明治三十年三月二十三日
貴族院議長公爵近衛篤麿
内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル明治
十八年第十四號布告中改正法律
案ノ裁可ヲ奏請ス

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

貴族院之印
議長之印

明治十八年第十四號布告中改正法律案

明治十八年第十四號布告中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附　則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治十八年第十四號布告中改正法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ政府紙幣引換ノ方法ヲ改正スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十二年第三十五号布告廢止法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一條ニ依リ此段申進候也

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル明治
十二年第三十五號布告廢止法律
案ノ裁可ヲ奏請ス

明治三十年三月二十三日

貴族院議長公爵近衛篤麿

貴族院之印
議長之印

明治十二年第三十五號布告廢止法律案

明治十二年第三十五號布告ヲ廢止ス

明治十二年第三十五號布告廢止法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ一圓銀洋銀塊價通用ヲ禁止スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大藏大臣提出
一貨幣法案
一貨幣整理資金特別會計法案
一明治十七年第十八號布告兌換銀行
券條例中改正法律案
一明治十八年第十四號布告中改正法

律案

一明治十二年第三十五號布告廢止法律案

右謹テ上奏シ恭シク
聖裁ヲ仰キ併セテ帝國議會ノ議ニ付セラレムコトヲ請フ

明治三十年二月二十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

大甲一四

明治三十年二月廿六日

内閣書記官

法制局長官

内閣書記官長

内閣總理大臣

外務大臣

大藏大臣

海軍大臣

文部大臣

遞信大臣

黒田議長

内務大臣

陸軍大臣

司法大臣

農商務大臣

拓殖務大臣

大藏大臣提出

一貨幣法案

一貨幣整理資金特別會計法案

一明治十七年第十八號布告兌換銀行券

條例中改正法律案

一明治十八年第十四號布告中改正法律案

一明治十二年第三十五號布告廢止法律案

一貨幣ノ形式ニ關スル勅令案 并參考表

右國議ニ供ス

ノ不平均ヲ告ケ正貨ノ海外ニ駆逐セルヲ以テ金貨ハ弥ヨ市場ニ跡ヲ止メス開港場ノ貿易ハ僅カニ外商ノ輸入セル丼銀ヲ媒介トシテ取引ヲ為スノ景況ニ陥リ不便言フヘカラサルヲ以テ明治十一年ニ至リ断然貿易銀ノ通用区域ヲ一般内地ニ及ホシ専ラ明治十二年ニ至リ貿易銀ト丼ニ銀ト並ヒ通用ヲ公許シ以テ幣制一時ノ急ヲ救フコトニ決セリ此時ニ当リ明治十年西南戦争ノ為メ政府紙幣弐千七百万圓ノ兼行アリ又明治九年圓主銀行條例改正後銀行紙幣ノ漸行参千四百餘万圓ノ多キニ達シ

内地流通紙幣漸ク過多トナリ従テ其価格正貨ニ比シ漸次ニ低落シ其結果物価ハ非常ニ騰貴シ金利ハ昇リ公債ハ下落シ輸出入ハ益ヽ不平均ヲ告ケ正貨ハ益ヽ海外ニ流出シ人民ハ奢侈ニ奔リ経済并財政ノ状況非常ノ危殆ニ陥リ悩毒言フヘカラス此ニ於テ廟議深ク憂慮セラル、所アリ速カニ幣制ヲ整理シ経済并財政ヲ革新シ国家永遠ノ基礎ヲ固フスルノ大方針ヲ定メラレ銃意實行ヲ期セリ依テ明治十四年横濱正金銀行ノ整理ニ着手シ以テ海外ニ対スル金融機関ノ規模ヲ擴張シ明治

十五年日本銀行ヲ設立シ金融疏通ノ方法ヲ講ジ兌換銀行券條例ヲ定メ明治十六年國立銀行條例ヲ改正シテ銀行紙幣消却ノ方案ヲ立テ茲ニ紙幣一ノ基礎漸ク成リ而シテ政府費行ノ紙幣ハ先ツ豫備札ヲ引揚ケ或ハ金札引換公債証書ヲ發行シ或ハ歳入ヲ増シ歳出ヲ節シ差引歳入殘餘ヲ以テ紙幣消却ノ元資ニ充テ或ハ準備金ヲ運用シテ正貨ヲ吸收シ以テ紙幣ノ兌換ニ充テ一方ニ於テハ紙幣ノ發行高ヲ減シ一方ニ於テハ正貨ヲ蓄積シ漸次紙幣ノ價格ヲ回復シ終ニ明治十九年一月一日ヲ以テ紙幣ノ兌換ヲ實施シ銀紙ノ價格同一トナリ茲ニ漸ク幣制整理ノ一段落ヲ見ルニ至レリ爾来本邦ノ經濟ハ實ニ駸々トシテ進ミ商業ハ繁昌シ工業ハ起リ貿易ハ常ニ輸出超過トナリ為メ正貨ハ年々流入シテ日本銀行ノ兌換準備ハ大ニ増加セリ而シテ財政亦共ニ好況ニシテ高利ノ公債ハ低利ニ整理シ歳計ハ年ニ數百万圓ノ剰餘ヲ生シ其額ルニ至レリ

幣制ノ整理ハ明治十九年ヲ以テ一段落ヲ告ケタルモ是レ纔カニ不換紙幣ヲ整理シ

テ銀貨ヲ充換トナシタルニ止リ未タ以テ全本位ノ本体ニ復スルコト能ハス然ルニ世界銀價ノ實況ヲ観察スルニ鑛業及ヒ製錬術ノ進歩并銀床ノ發見ニ伴ヒ其産出年々非常ニ増加シ價格從テ低廉ニ赴クヲ以テ商工業ノ進歩シタル諸國ニ於テハ物價ノ變動ト通用上ノ不便トヲ恐レ銀貨ヲ鑄造スルコトヲ停止シ所謂排銀政策ヲ實施セリ此ニ於テ銀ハ産出増加スルニ拘ハラス貨幣トシテノ需用ハ反テ減スルノ傾向トナリ價格益々下落ニ赴ケリ之ニ反シ金ハ各國爭テ吸收ヲ力ムルヲ以テ其價格騰貴スルニ拘ハラス其産額ハ濠洲及ヒ

カリホルニヤ金壙發見後ハ最近年ノ阿弗利加金ノ發見マテ寧ロ減少ニ傾キ益々價格ノ上騰ヲ来セリ形勢如斯ナルヲ以テ列國ハ金貨國ト銀貨國トニ分レ相互ノ間貿易上ノ不利從テ商工業ノ不便少ナカラサリシヲ以テ各強大國一時銀價維持策ヲ講究シ相協同シテ金銀両本位ヲ行ハンコトヲ發議シ會合数回一モ協議ノ纏ルニ至ルモノアラサリキ各國中北米合衆國ハ其領内ニ数多ノ銀山アリ銀價ノ高低ニ最モ利害ヲ感スルコト強ク從テ國中ニ強大ナル可銀党ヲ生シ政治上少ナカラサル勢力ヲ有スルヲ以テ最モ

熱心ニ而奉仕論ヲ主張シ前後二回単
独ニ國内限リ而奉仕制ノ實行ヲ試ミタ
ルモ其目的ヲ達セスシテ止リ此ニ於テ列
國中形勢ヲ傍観セルモノ相尋ヲ断ツ金
本位ニ移リ若クハ銀貨鋳造ヲ停止シ若
クハ或ル金ヲ吸収シ銀ノ輸入ヲ防キ以テ
金本位實施ノ準備ヲ為セリ而シテ世界
中銀吸収ノ二大中心ノ一タル印度ハ明治二十六
年ニ於テ機熟ヲ察シ突然銀貨自由鋳造ヲ
廃シ金計算ヲ取ルノ方策ヲ実施セリ本邦
ニ於テハ久シク不換紙幣ノ整理中ニアリテ
銀價下落ノ問題ハ深ク痛痒ヲ感セスシテ
経過セリ此ニ明治十九年銀紙同一トナリシ
後ハ此ノ問題ハ一日モ看過スヘカラサルモノトナ
リ熱心ニ注意ヲ怠ラス而シテ世界ノ大勢ハ
到底動スヘカラス印度ノ状況モ亦右ノ如ナ
ルヲ以テ時機モハヤ一日モ猶豫スヘカラス此ニ於
テ明治二十六年ノ秋廟議貨幣制度調査
會ヲ置キ幣制得失ノ調査ヲ命セラル
同會ハ熱心周密ニ調査ニ従事シ翌年ヲ
閲スル一年餘延ヘテ明治二十八年七月ヲ以テ
調査ノ結果ヲ復命セリ其復命ニ依ル
ニ我邦ノ幣制ハ改良ノ必要アリトシ為ニ其
新ニ採用スヘキ本位ハ金タルヘキコトヲ
断言セリ而シテ金本位實施前ニ先ツテ
金ノ蓄積ヲ必要トシ尚ホ附言セリ其詳

細ハ載セテ同會ノ報告ニアリ
世界ノ大勢ハ彼カ如ク貨幣制度調査會
ノ報告モ亦斯ノ如シ金本位實施ノ必
要モハヤ疑ヲ容レス依テ爾来專ラ金
吸收ノ方策ヲ求メタリ恰モ好シ下ノ関係
約ニ依リ清國ハ償金貳億両ヲ支拂フコ
トヲ約セリ然ルニ清國ハ償金支拂ノ為メ
公債ヲ歐洲ニ於テ募集スルノ必要アルヲ
以テ彼我ノ便益ヲ計リ償金ハ英京ニ於
テ金貨ヲ以テ受取ルコトニ追約セリ茲ニ
於テ金ノ吸收ニハ非常ノ便益ヲ得タリ
今ヤ從来日本銀行ノ兌換準備中ノ金
貨參千參百餘万圓及償金ヲ以テ取寄ニ

係ル金貨六千五百餘萬圓合計九千八百餘萬圓之ハ現行金貨幣ヲ一円八十錢トシテ計算シタルモノナリ故ニ之ヲ新貨幣ニ換算スレハ一億九百餘萬円トナル
ノ多キ上リ金貨本位ヲ實施
スルノ機實ニ熟セリト云フヘシ是……
レ千載一遇ノ好機ニシテ再ヒ得ヘカラス
廟議ノ断然速カニ決スル所アランコト
熱望ニ堪ヘサルナリ
今法案ニ具スル所ノ金本位實施方法
ノ大要ヲ述ヘンニ現今通用ノ壹圓銀
貨ト畧ホ同價格ノ金貨ヲ造ラントス
此ノ如クナルトキハ現在ノ貸借并租税
ノ負擔其他現存ノ関係ニ變動ヲ與
フルノ憂ヲ避ケ得ヘキナリ而シテ壹圓
銀貨ノ製造ヲ廢止スルト同時ニ兌換銀

行券及ヒ政府發行ノ紙幣ハ金貨又
換ノ制ト為シ從來發行ノ壹圓銀貨幣
ハ別ニ特別ノ資金ヲ設ケテ漸次其整理
ヲ完了シ之カ回收ニ從ヲ補助銀貨幣
ヲ發行シ以テ茲ニ金本位ヲ樹立セン
トス

輓近本邦ノ貿易ハ長足ノ進歩ヲ為シ
タリ之ニ依リ將來ヲ推ストキハ一層ノ發
達ヲ為スヘキ望アリ加フルニ本邦ノ地形
タルヤカリホルニヤ及ヒ濠洲ノ如キ金産出
國ト連ナルヲ以テ金ノ吸收ニハ頗ル便ナル
モノアリ又支那朝鮮ヨリ輸出スル所ノ
金モ少カラサルヲ以テ貿易上ノ手段ニ

ヨリ其産金ヲ吸收シ得ルノ途ナキニアラ
ス果シテ然ラハ金準備ノ維持ハ敢テ難
キニアラサルヘシ又金本位ノ實施ハ歐
米諸國貨幣市場ノ中心ト我國市場
トヲ聯絡セシメ相互ノ貿易ヲ開キ貿易ノ
ヘキナリ而シテ支那朝鮮等ノ銀國ニ
對シ金貨國ト競爭上必要ナル事項
地形ノ接近其他生産上ノ憂フルニ足ラサルヘシ
ニ富メルヲ以テ深ク之ニ及シテ他日若シ銀價ノ下落一層甚
シキニ至ルトキハ支那朝鮮等ノ銀國ハ
金貨國ニ對シ輸出貿易上多少競

爭ノ利ヲ占メン所アルハ免レサルヘキモ是レ亦一時ニ止リ幣制改革ニ依テ生ス
ル利益ト比較スルニ足ラサルナリ
之ヲ要スルニ貨幣ノ基礎今日ノ如ク動揺常ナクシテハ決シテ経濟ノ確實ト貿
易ノ發達トハ望ムヘキニアラス果シテ然
ラハ償金ニ依テ回收セラルル金ノ外出セサルノ今日若クハ臨時偶發ノ事變ノ為メ
ニ意外ノ妨害ヲ蒙ラサルノ前茲ニ完全ナル金本位制ヲ採用スルノ基ヲ開キ現
存ノ関係ニ動揺ヲ與ヘスシテ能ク確實
鞏固ナル基礎ノ上ニ貨幣ノ制度ヲ置キ本邦ノ經濟ヲ發達セシメ國家ノ地
位ヲシテ一層高カラシメンコトヲ今日ハ當
ニ其時機ナリ一度此期ヲ失セハ目的ヲ
達セシコト容易ニ望ムヘカラス故ニ希ハ
ハ斷行ノ一日モ速ナラシコトヲ別紙貨
幣法案及特別會計法案其他ノ附
屬法律案貨幣ノ形式并參考表
ヲ添付シ茲ニ閣議ニ提出ス
明治三十年二月二十五日

大藏大臣伯爵松方正義

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣
二十圓
十圓
五圓

銀貨幣
五十錢

二十錢
十錢
白銅貨幣
五錢
青銅貨幣
一錢
五厘

第四條　貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヒ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一金貨幣純金九百分參和銅一百分

二銀貨幣純銀八百分參和銅二百分

三白銅貨幣「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分錫四十分亞鉛十分

四青銅貨幣銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一二十圓金貨幣　四匁四分四厘四毛四（十六「グラム」六六六五）

二十圓金貨幣　二匁二分二厘二毛二（八「グラム」三三三三）

三五圓金貨幣　一匁一分一厘一毛一（四「グラム」一六六六）

四五十錢銀貨幣　三匁五分九厘四毛二

（十三「グラム」四七八三）

五　二十銭銀貨幣一枚四分三厘七毛七
（五「グラム」三九一四）

六　十銭銀貨幣一枚二分七分一厘八毛八（二
「グラム」六九五五）

七　白銅貨幣一枚二分四厘四毛一（四
「グラム」六五四）

八　一銭青銅貨幣一枚九分零厘零
毛八（七「グラム」一二八。）

九　五厘青銅貨幣一枚九分五厘零毛四
（三「グラム」五六四。）

第七條　金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナ
ク法貨トシテ通用ス　銀貨幣ハ十圓

マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一
圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條　貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第九條　金銀貨幣ハ純分ノ公差ハ金
貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分
ノ三トス

第十條　金銀貨幣量目ノ公差ハ左
ノ如シ

一　金貨幣二十圓ハ毎片八毛六四（。
グラム。三二四。）一千枚毎ニ八分三厘
（三「グラム」一一二五。）十圓ハ毎片六
毛零五（。グラム」二二六九）一千枚

毎二六分二厘（二「グラム」三二五〇）五
圓ハ毎六四毛三二（一「グラム」五三七五〇）一千
枚毎二四分一厘（一「グラム」〇一六二〇）一千
二銀貨幣ハ各種共毎六二厘五毛九二
（〇「グラム」九七二〇）五十銭銀貨幣ハ一千
枚毎二一匁二分四厘（四「グラム」六五〇〇）二十銭
銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘（三「グラム」
二二五〇）十銭銀貨幣ハ一千枚毎ニ
四分一厘（一「グラム」五三七五〇）トス

第十一條　金貨幣ノ通用最軽量目ハ
二十圓金貨幣四匁二分二厘（十六「グラム」五
七五〇）十圓金貨幣二匁二分一厘（八「グラム」二
八七五）五圓金貨幣一匁一分零厘五毛

（四「グラム」一四三八）トス

第十二條　金貨幣ニシテ磨損ノ為メ通用
最軽量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨
幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨
損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣
ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ
政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模様ノ認識シ難
キモノ又ハ私ニ極印ヲ為シ其ノ他故意
ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ
効用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ
製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請

求ニ應スヘシ

附則

第十五條　從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條　從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條　從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

第十八條　此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニアラス

第十九條　此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條　此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

貨幣法案理由書

本邦ハ往時金ノ産出多ク慶長以来多数ノ金貨ヲ鋳造セリト雖モ安政開港以後本邦金銀ノ比價其當ヲ失セシカ為メ金、流出甚シク殆ト其斃ニ堪ヘス明治維新ノ初メ茅一着手ニ幣制ノ改革ヲ規畫シ金貨本位ヲ採用セリ然ルニ當時紙幣、制宜ヲキヲ失シ正貨、輸出ヲ促シ明治十一年ニ至リ一時止ムコトヲ得ス銀貨ノ一般通用ヲ公許セリ茲ニ於テ貨幣條例上金貨ヲ以テ本位ト為スト雖モ實際銀ハ諸般計算、基礎ト

ナリ唯一ノ本位タルノ地位ヲ占メ以テ今日ニ至レリ然ルニ今ヤ金銀ノ關係ハ大ニ其趣ヲ異ニシ又往日ノ比ニアラス世界ノ大勢ト我邦經濟ノ進歩發達ハ銀貨本位ノ不利ヲ感セシムルニ至レリ加フルニ戰後大ニ本邦經濟ノ擴張ヲ要スルモノアリ而シテ日清事件ノ結果金ノ供給ヲ得ルハ頗ル容易ニシテ此機ニ乘シ斷然金貨本位ノ制度ヲ採用シ將來益々我經濟ノ發達ト鞏固トヲ圖ラントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

貨幣整理資金特別會計法

第一條　壹圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ為メ貨幣整理資金ヲ置キ其歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條　明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條　交換ノ上引揚タル壹圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四條　毎會計年度ニ於テ貨幣整理資

金特別會計ノ決算上該資金額ニ
過剰ヲ生スルトキハ其過剰金ヲ該資金ニ
編入スヘシ

第五條　政府ハ毎年貨幣整理資金特
別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ
帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル
規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

貨幣整理資金特別會計法案理由書

貨幣制度改革ニ就キ一圓銀貨幣交換
其ノ他貨幣整理ノ為メ資金ヲ要シ其
ノ會計ハ一般會計法ニ依リ難キモノアル
ヲ以テ特別會計ヲ設置スルノ必要アリ
是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通リ改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十八号布告兌換銀行券條例中改正法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ伴ヒ兌換銀行券引換ノ方法ト其準備トニ改正ヲ要スルヲ以テ本案ヲ提出スル所以ナリ

兌換銀行券條例　明治十七年
十八号布告

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行ノ條例第十
四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ
以テ兌換スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ
對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其
引換準備ニ充ツヘシ

第三條　兌換銀行券ハ壹圓五圓拾圓
武拾圓五拾圓百圓武百圓ノ七種トス但大
藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第七條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ
引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀
行本店及ヒ支店ニ於テ毫手數料ニテ

之ヲ交換スヘシトス
（以下略）

明治十八年第十四号布告中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治十八年第十四号布告中改正法律案

理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ政府紙幣引換ノ方法ヲ改正スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

紙幣漸次銀貨ニ交換　明治十八年
政府発行ノ紙幣ハ　布告第十四号
ヨリ漸次銀貨ニ交換シ来明治十九年一月
幣ハ之ヲ銷却スヘシ其交換シタル紙
但交換ノ手續ハ大蔵卿之ヲ定ム日本
銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ
右奉勅旨布告候事

明治十二年第三十五號布告ヲ
廢止ス

明治十二年第三十五號布告廢止法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ洋銀（一兩銀）並價通用ヲ禁止スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

国立公文書館
National Archives of Japan

布告

明治十二年九月第三十五号布告

一貿易壱圓銀（量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一）ノ儀今般税関ノ諸税及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナス為メ之ヲ差出ストキハ諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

一本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタル所ノ金高ヲ拂フ為メ右壱圓銀ヲ差出ストキハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

右布告候事

勅令第　号
法律第　号ニヨリ貨幣ノ形式左ノ通
相定ム

以下參照

本位金貨

二十四	十	四	五	四
	貨幣圖以下畧之		〃	
徑曲尺	徑曲尺	徑曲尺	徑曲尺	徑曲尺
九分五厘	七分	六分	六分	六分
量目	量目	量目	量目	量目
四匁四分四厘四毛四（十六グラム六六六五）	二匁二分二厘二毛二（八グラム三三三三）	一匁一分一厘一毛一（四グラム一六六六）	一匁一分一厘一毛一（四グラム一六六六）	一匁一分一厘一毛一（四グラム一六六六）
性合	性合	性合	性合	性合
純金 九百分	純金 九百分	純金 九百分	純金 九百分	純金 九百分
參和銅 一百分	參和銅 一百分	參和銅 一百分	參和銅 一百分	參和銅 一百分

国立公文書館
National Archives of Japan

補助銀貨

五十錢	二十錢	十錢
〃	〃	〃
径曲尺	径曲尺	径曲尺
量目	量目	量目
性合	性合	性合
一寸〇二厘	七分四厘	五分八厘
三匁五分九厘四毛二（十三グラム四七八三）	一匁四分三厘七毛七（五グラム三九一四）	七分一厘八毛八（二グラム六九五五）
純銀 八百分	純銀 八百分	純銀 八百分
参和銅 二百分	参和銅 二百分	参和銅 二百分

補助銅貨

五錢	一錢	五厘
	〃	〃
径曲尺	径曲尺	径曲尺
量目	量目	量目
性合	性合	性合
六分八厘	九分二厘	七分二厘
一匁二分四厘四毛二（四グラム六六五四）	一匁九分〇厘〇毛八（七グラム一二八〇）	九分五厘〇毛四（三グラム五六四〇）
ニツケル 二百五十分	銅 九百五十分	銅 九百五十分
参和銅 七百五十分	錫 四十分	錫 四十分
	亜鉛 十分	亜鉛 十分

国立公文書館
National Archives of Japan

參考表

国立公文書館
National Archives of Japan

銀貨及銀塊五ヶ年間ニ交換概算高調

一金七千九百三拾二万余円

内

金三千九百三十二万余円　内地流通壱円銀貨（但軍隊ノ携帯セシ一千餘万円ヲ除ク）

金三千万円　日本銀行ニ在高銀塊

金壱千万円　外国ヨリ還流スル見込ノ銀貨

計右文ノ如シ

一金三千七百五十万円　日本銀行ノ準備ニ充ツル高

差引
金四千百四十万円
但五ヶ年内ニ補助銀貨ニ可講スヘキ高
右ノ経画ニ依レハ一ヶ年ニ必要ナル基金ハ
金八百三十万円
右モ一ヶ年ニ高ヲ運転スルモノトセハ必要ナル基金ハ
金四百十五万円也

壹円紙幣整理概算補

一 金七千六百萬円
内
百兌換券 六千四百萬円 七
百政府紙幣
銀行紙幣 千二百萬円 九
ソ
一 金四千百五十萬円 四ヶ年間ニ発行スヘキ補助銀貨
差引
金三千四百五十萬円 一円兌換券流通高
右ハ市場ノ状況ニヨリ五円兌換銀行券ト交換シ或ハ補助銀貨ノ増発ト共ニ回収ヲ要スヘキ

国立公文書館
National Archives of Japan

モノ以ス

金貨鑄造之以

四、五、六 三ヶ月習 造幣局製造準備

七、八、九 三ヶ月習 鑄造

九 三ヶ月習鑄造高

金貨四千八百万円

内

十四金貨 千二百万円

二十四金貨 三千六百万円

ソ

造幣局ヘ金地金輸入見込

金塊 二千万円 造幣局現在高

仝 千五百万円 目下回送ニ付造幣局着

仝 三千五百万円 日本銀行現在高

計 七千万円

外ニ

三千万円 償金ヲ取寄セ見込

日本銀行準備金調

一金壹億九百四十万四百五十六円二十四銭六厘 金貨及金塊

内

金貨 三千六百七十七万六千六百円 日本銀行在高

ソ 金塊 七千二百六十二万三千八百五十六円二十四銭六厘 償金ヲ以五月迄ニ兌換券ト交換スヘキ高

外 銀貨及銀塊 四千九百四万八百四十一円六十一銭六厘

合計 壹億五千八百四十四万千二百九十七円八十六銭二厘

補助貨調

三十年十一月末日

一 補助銀貨 二千三百六十五萬二千九百二十七円五銭

新ニ増鋳見込高 四千百九十萬円

小計 六千五百五十五萬二千九百二十七円五銭

一 白銅貨 六百十七万九千三百十七円七十五銭

一 新旧銅貨 九百三十七万二千二百九十四円二十四銭五厘

小計 壱千五百五十五万一千六百十一円九十九銭五厘

合計 八千百十万四千五百三十九円四十九銭五厘

本邦通貨在高　三十年十月末

一 金貨 壱千二百八拾壱万二千百八十壱円六拾銭
一 銀貨 七千三百三拾五万五千四百四拾四円九厘
一 銅貨 壱千五百五拾五万千六百八円九五
　計 壱億百七拾壱万九千六百四拾壱円五三六
一 政府紙幣 九百二拾壱万七千百四拾七円七五〇
一 銀行紙幣 壱千六百四拾六万四千二百八十九円
一 兌換銀行券 壱億九千五拾壱万九千四百四十六円
　計 二億千六百二十万八百八拾二円七五〇
合計 三億千百九拾八万五百六十四円二八六

貨幣法案

右

勅旨ヲ奉シ帝国議会ノ提出ス

明治三十年三月一日

内閣総理大臣兼
大蔵大臣 伯爵

貨幣法案

国立公文書館
National Archives of Japan

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

国立公文書館
National Archives of Japan

二十錢
十錢　白銅貨幣
五錢　青銅貨幣
一錢
五厘

第四條　貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヒ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一　金貨幣　純金九百分參和銅一百分

二　銀貨幣　純銀八百分參和銅二百分

三　白銅貨幣　「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

四　青銅貨幣　銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一　二十圓金貨幣　四匁四分四厘四毛四（十六「グラム」六六六五）

二　十圓金貨幣　二匁二分二厘二毛二（八「グラム」三三三三）

三　五圓金貨幣　一匁一分一厘一毛一（四「グラム」一六六六）

四　五十錢銀貨幣　三匁五分九厘四毛二（十三「グラム」四七八三）

五　二十錢銀貨幣　一匁四分三厘七毛七（五「グラム」三九一四）

六　十錢銀貨幣　七分一厘八毛八（二「グラム」六九五五）

七　白銅貨幣　一匁二分四厘四毛一（四「グラム」六六五四）

八　一錢青銅貨幣　一匁九分零厘零毛八(七「グラム」一二八〇)

九　五厘青銅貨幣　九分五厘零毛四(三「グラム」五六四〇)

第七條　金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條　貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條　金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

一　金貨幣二十圓ハ毎片八毛六四(〇「グラム」〇三二四〇)一千枚毎ニ八分三厘(三「グラム」一一二五〇)十圓ハ毎片六毛零五(〇「グラム」〇二二六九)一千枚毎ニ六分二厘(二「グラム」三二五〇〇)五圓ハ毎片四毛三二(〇「グラム」〇一六二〇)一千枚毎ニ四分一厘(一「グラム」五三七五〇)トス

二　銀貨幣ハ各種共毎片二厘五毛九二(〇「グラム」〇九七二〇)五十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ一匁二分四厘(四「グラム」六五〇〇〇)二十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘(三「グラム」一一二五〇)十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ四分一厘(一「グラム」五三七五〇)トス

第十一條　金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘(十六「グラム」五七五〇)十圓金貨幣二匁二分一厘(八「グラム」二八七五)五圓金貨幣一匁一分零厘五毛(四「グラム」一四三八)トス

第十二條　金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附則

国立公文書館 National Archives of Japan

第十五條　從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條　從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ」

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條　從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

第十八條　此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニアラス

第十九條　此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條　此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

貨幣法案理由書

本邦ハ往時金ノ產出多ク慶長以來多數ノ金貨ヲ鑄造セリト雖モ安政開港以後本邦金銀ノ比價其當ヲ失セシカ爲メ金ノ流出甚シク殆ント其弊ニ堪ヘス明治維新ノ始メ第一著手ニ幣制ノ改革ヲ規畫シ金貨本位ヲ採用セリ然ルニ當時紙幣ノ制宜シキヲ失シ正貨ノ輸出ヲ促シ明治十一年ニ至リ一時止ムコトヲ得ス銀貨ノ一般通用ヲ公許セリ茲ニ於テ貨幣條例上金貨ヲ以テ本位ト爲スト雖モ實際銀ハ諸般計算ノ基礎トナリ唯一ノ本位タルノ地位ヲ占メ以テ今日ニ至レリ然ルニ今ヤ金銀ノ關係ハ大ニ其趣ヲ異ニシ又往日ノ比ニアラス世界ノ大勢ト我邦經濟ノ進步發達ハ銀貨本位ノ不利ヲ感セシムルニ至レリ加フルニ戰後大ニ本邦經濟ノ擴張ヲ要スルモノアリ而シテ日淸事件ノ結果金ノ供給ヲ得ルハ頗ル容易ニシテ此機ニ乘シ斷然金貨本位ノ制度ヲ採用シ將來益〻我經濟ノ發達ト鞏固トヲ圖ラントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

国立公文書館
National Archives of Japan

貨幣整理資金特別會計法案

右

勅令ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十年三月　日

內閣總理大臣兼

大藏大臣

貨幣整理資金特別會計法案

貨幣整理資金特別會計法

第一條　一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲メ貨幣整理資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條　明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條　交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四條　每會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條　政府ハ每年貨幣整理資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

貨幣整理資金特別會計法案理由書

貨幣制度改革ニ就キ一圓銀貨幣交換其他貨幣整理ノ爲メ資金ヲ要シ其會計ハ一般會計法ニ依リ難キモノアルヲ以テ特別會計ヲ設置スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

内閣

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通リ改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附　則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

国立公文書館
National Archives of Japan

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ伴ヒ兌換銀行券引換ノ方法ト其ノ準備トニ改正ヲ要ス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十八年第十四号布告中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝国議会ニ提出ス

明治二十年二月　日

内閣総理大臣

大蔵大臣

明治十八年第十四號布告中改正法律案

明治十八年第十四號布告中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附　則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

国立公文書館
National Archives of Japan

明治十八年第十四號布告中改正法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ政府紙幣引換ノ方法ヲ改正スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十二年第三十五號布告廃止法律案

右

勅旨ヲ奉シ之ヲ帝國議會ニ提出ス

明治三十年三月　日

内閣總理大臣

大藏大臣

内閣

明治十二年第三十五號布告廢止法律案

明治十二年第三十五號布告ヲ廢止ス

国立公文書館
National Archives of Japan

明治十二年第三十五號布告廢止法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ一圓銀洋銀竝價通用ヲ禁止スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ